

諏訪湖の愉しみ方

宿場街道資料館 研究員 小口 徹



図1 春宮の宮坂下から見た富士山 2013年撮影。画面左側は山王閣。益軒が見た富士山はこんな姿だったろう。



図2 貝原益軒 木曾路の記 諏訪湖図



図3 溪斎英泉 木曾街道塩尻嶺 諏訪湖水眺望

「エッ、富士山が見えるんですか!?!」と、お客様がビックリされることがあります。考えてみると、長野県で盆地底から富士山を見られるのは、諏訪盆地の下諏訪だけ。

下諏訪の湖畔から見る富士山は、視界をドーンと占める富士山ではなく、山と山の中にちらりと見える富士山。しかも、天気によって霞んだり見えなかったり。いくつかの幸運が重なっての富士見といえます。

1 下のすはより富士山みゆる

『養生訓』で有名な貝原益軒が1709年頃に中山道を旅し、『木曾路の記』というガイドブックを著しています。下諏訪には和田峠を越えてやって来ました。春宮の宮坂下辺り(図5のG)で、道中で初めて富士山を見ることができ、「下のすはより富士山みゆる」〈下諏訪から富士山が見える〉と書いています(図1)。よほど感動したのでしょうか。

益軒は、『木曾路の記』で、ここから見える富士山や諏訪湖、高島城、御渡り等について18ページを割いて事細かに記し、塩尻峠付近(図5のF)からの情景を見開きで本の口絵に載せています(図

2)。『木曾路の記』は、後の絵師や作家にかなりの影響を与えました。例えば、溪斎英泉は『木曾路の記』の記事を絵で表し、富士山、浮城の高島城、氷が張った諏訪湖、氷上に行く人々などを描いています(図3)。

2 押す力の向きのおかげ

富士山は、伊豆衝突帯という、‘伊豆島’と本州の間にあった堆積物や火山がギュッと押しつけられた地質帯のまん中辺にできました。押したのはフィリピン海プレート(図4の矢印)。この押す力で諏訪盆地と甲府盆地をつなぐ「樋」のような

発行 下諏訪町教育委員会
編集 生涯学習
編集委員会

〒393-8501
長野県諏訪郡下諏訪町4611-40
(下諏訪総合文化センター内)
☎0266-27-1111(内線718)
FAX 0266-28-0131
E-mail=syougai@town.
shimosuwa.lg.jp

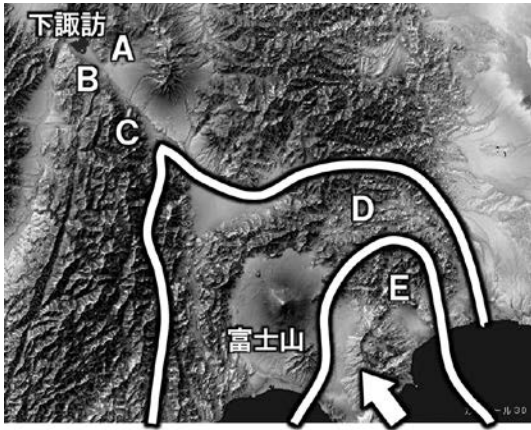


図4 下諏訪と富士山 A：永明寺山塊、B：鏡湖がある台地、C：釜無山塊、D：伊豆衝突帯、E：フィリピン海プレート、矢印：フィリピン海プレートの沈み込み（本州を押し力）の向き。

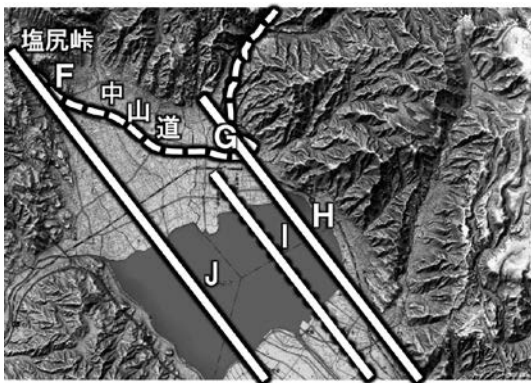


図5 富士山が見える範囲 F：中山道の塩尻峠付近、G：中山道の宮坂下、H：富士山が見える東縁線、I：鏡湖がある台地に遮られる東縁線、J：富士山が見える西縁線、諏訪盆地底の限られた地点だけからしか富士山は見られない。



図6 赤砂崎からの富士山 2019年4月25日18：57撮影。茅野市の鏡湖がある台地で、富士山の下部が隠される。



図7 湖浜からの富士山 2019年4月25日18：30撮影。『関東の富士見百景』で紹介されている「湖越しに西日に映える富士山」。左右からの山のくぼみに富士山が納まる。

が、日本再生の象徴として、多くの人に生きる希望と喜びを与えてくれることを願っています」とあります。まさに“霊峰富士”です。

地形も作られました。その樋の先に富士山があります。樋のような地形も富士山も、フィリピン海プレートの押す力が最も大きく働く場所だと考えられています。この押す力の向きが違っていたら、樋のような地形も富士山も今の位置にはなかったでしょう。つまり、下諏訪から富士山は見られないことになります。

3 あなたはどちら派？

諏訪盆地と甲府盆地をつなぐ樋のような地形には、東の永明寺山塊（図4 A）と、西の釜無山塊（図4 C）の出っ張りがあり、諏訪の平地で富士山を見るには、この二つの出っ張りの間から‘垣間見る’ことになります。

図5のH・I・Jの線は、北から時計回りに143°の方向のもので、この線の先に富士山があります。H線は永明寺山塊、J線は釜無山塊、それぞれの斜面に視界を遮られないギリギリの線で、平地から富士山が見られるのは理論上H線とJ線の間ということになります。

ただし、I線とJ線の間は茅野市の鏡湖がある台地（図4のB）がダラリと富士山の下部を隠しており、（図6）、この台地の上に見える富士山を「美しくない」という人と、「これはこれで美しい」という人とに分かれます。あなたはどちら派でしょうか。

図5のH線とI線の間の下諏訪の湖岸は、『関東の富士見百景』に登録されている場所になります。視界を遮る出っ張りがなく、富士山の全体像をつかむことができます。しかし、こうした景観に出会えるのはわずか1kmほどの範囲です。

ちなみに、中山道はH線とJ線の間、富士山が平地で見られる範囲を斜め横断しています。塩尻峠を越えて来た旅人たちは、天気さえ良ければ、富士山と諏訪湖の眺めを堪能しつつ、中山道中唯一温泉のある下ノ諏訪宿を目指したのでしょう。心も体も癒される道行きだったに違いありません。

4 霊峰富士

2011年6月に出版された新書『「富士見」の謎』で、日本各地のどこから富士山が見えるのか紹介されています。その最後に「（大震災を経て）富士山を眺めること

観音沢を歩いてみませんか



奥霧ヶ峰八島高原荘 高橋 暁きょう

始まりは、あざみバス停の萩倉上からです。ここから先は、県道199号線です。結構山の中に入っていきますが、車の往来がありますので、注意が必要です。



10分ほど歩きますと、左手に御柱古道と書かれた標識が見え

ます。左に入り、この道を進んでいきますと、何となく山歩きを感じますし、この先の予行演習と想像していただければ良いでしょう。

30分ほどで大平に出ます。御柱祭りの際、ここから柱を引き始めますので、皆様もお耳にされる地名だと思えます。この先、県道は左へと進んでいきますが、右手に旧大平公民館の前を真っ直ぐ、車が通れるほどの道を進みます。程なく橋が現れ、左岸から右岸に渡ります。

橋を渡るとすぐ、道は二手に分かれます。ここには怪しげな古い道標があり、右に登れるようになっていきます。進んでいただきますと、すぐにまた古い道標が現れます。この辺り、廃屋などがありますが、少し分りにくいのですが、道標通りに進めば



問題は無いと思います。この先は道が明確になり、かつてはよく人が歩いたのだろうと思える道が続きます。急に突飛な感じで、観音沢林道に出ます。少しだけ車も通れるような林道を左に進み、前方に観音沢に架かる橋が見えてきたら、手前右側に、山道への入口の道標が見えます。

ここからが観音沢の核心部で、それまでの怪しげで、数少ない道標も、この先にはよく見かけられます。それまでの林道のよいうな道が、まぎれもない山道に変わり、苔むした道を行くと、こんな綺麗で気持ちの良い道なのに、どうして誰も歩かないのだろうかと思えます。大平から二時間ほど歩きますと、前方に垂直な岩壁が現れます。

観音沢のハイライト、屏風岩です。見上げますと、岩壁上の少しくぼんだ中に、小さな石造りの千手観音像が見えます。屏風岩の手前やその



先は、少し頼りない橋を渡ったり、美しい沢沿いの道が続きます。

上流に行くほど、道が判りにくくなってきましたが、目印のテープが所々に付けてありますので、探しながら進みます。

何となく笹藪が濃くなってきましたと、目の上の方にビーナスラインに架かる赤色の観音橋が見えてきます。この橋をくぐり抜け、少し落葉松の林を進みますと、一気に空が抜け、開放的な風景が広がります。この先の小さなお社が旧御射山神社です。ここまで、萩倉上バス停からゆつくり歩いて3時間から3時間半です。是非一度観音沢を歩いてみられてはいかがでしょうか。

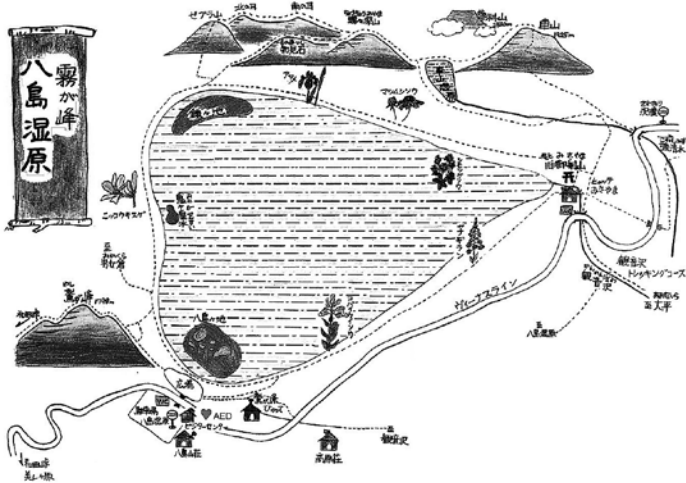
*山歩きの服装で、道に慣れた人と一緒に行きましょう。

八島湿原に暮らして



ヒュッテ御射山 三井 悠ゆう

皆様は年に何回くらい八島湿原を訪れるでしょうか。四季を問わず毎週のように訪れる方、



夏に避暑をかねて出かける方、静けさを求めて春先や晩秋の湿原を好まれる方、それぞれに八島湿原に対する気持ちをお持ちのことと思います。

僕は八島ビジターセンターで働いた後、ヒュッテみさやまの管理人という仕事をいただいて、約十二年間を八島湿原で過ごしてきました。それでも、湿原の自然はいつも新しい発見に満ちていて、毎年たくさんの出会いと感動を与えてくれます。

例えば、この春は四月頭の低温と積雪で雪解けが遅く、小屋開け準備に心配が尽きませんでした。ある日の夕方、小屋の作業を終えて外に出ると、流れていないはずの観音沢の方向から

水が流れる音が聞こえてきました。ようやく沢の水が戻ったかなと思つて、橋まで行つてみるとやはり地面は枯れていて水が流れていません。よく耳を澄ますと水の音は上流の方から聞こえてきます。

上流の橋まで行ってみると、そこでは普通に水が流れているのです。再び下流に戻ると、上流からの水が窪地でダムを貯めるように満ちては、次の窪地に流れ出すという具合で、ゆつくと進めていきました。枯れ沢の水が復活していく様子を観察することが出来たのです。春の訪れを心待ちにしている者としては、これほどうれしい出来事はありませんでした。

八島湿原の魅力のひとつは、その表情の豊かさです。全く同じ場所でも毎回見え方・感じ方が違う。霧に光が反射して息をのむような光景に出会う朝、スキ野原を満月が優しく照らし出す夜、雨上がりの鳥たちの喜び、シカやキツネたちとの出会い

い…。ある日の枯れ沢のように、湿原の周囲で次々と起こる小さな出来事の積み重ねが、四季を進め、生き物たちが集い、八島湿原という大きな自然の風景を作っている。無駄なものがない世界。暮らすほどに、自分の周りの一つ一つが愛おしく思う今日この頃です。

八島湿原を楽しむコツは、あまり目的を定めずに、気の向くままに時間を過ごすこと。自分が気持ちいいと思う所を見つけて立ち止まり、ゆつくり深呼吸でもして風景を眺めていると、キツネが木道を歩く姿やノビタキが一生涯命子育てする姿などに出会えると思います。



ヒュッテの側で出会った迷子の小鹿

ちよつと、うみに



東鷹野町 滝口 昂太こうた

るる東京での生活に、疲労感、不安を感じ初めていた頃、友人に会いに訪れたのが下諏訪でした。

初めて訪れた下諏訪でしたが、私が学生時代まで暮らした神奈川県に囲まれた谷戸での生活を思い出させる懐かしい土地と、下諏訪で暮らす地元の方々のやさしさに触れた私が、移住を決めるのに時間はかかりませんでした。

二〇一八年十一月に東鷹野町に「UMI COFFEE & LAUNDRY」（以下、UMI）をオープンしました。店名にあるようにコインランドリー併設カフェですが、現在はランドリースペースの準備をしつつ、喫茶スペースを営業しています。私は神奈川県出身です。社会生活のほとんどは東京を拠点にしてきました。長年の目標だったカフェ開業を具体的に考えた当初は、東京で物件を探したこともありましたが、ゼロがたくなさん並ぶ事業計画書や、様々なものが目まぐるしく移り変わ

る東京での生活に、疲労感、不安を感じ初めていた頃、友人に会いに訪れたのが下諏訪でした。初めて訪れた下諏訪でしたが、私が学生時代まで暮らした神奈川県に囲まれた谷戸での生活を思い出させる懐かしい土地と、下諏訪で暮らす地元の方々のやさしさに触れた私が、移住を決めるのに時間はかかりませんでした。オープンからまだ間もないのですが、私がUMIでみている景色、これから思い描く景色は、東京では到底叶わなかったものだと思っています。常連のお客さんと「昨日の話だけどさ」から始まる早朝、お客さんとお子さんの成長を喜べること、初めて下諏訪を訪れた観光客の方とお互いが暮らす土地の（自慢）話を



たくさんの本・雑誌

する時間は、下諏訪での穏やかな時間の中だからこそだと思えます。UMIの喫茶スペースは私の手

作りです。ホームセンターなどで材料を買い、友人からアドバイスをもらって作りました。しかし、設計図や図面はなく、道行く人の姿や時折話しかけてくれる近所の方が店に来てくれたとき、どうしたら喜んでくれるかを想像して作りました。

現在、ランドリースペースの準備はゆつくりですが進めております。そして、そこには喫茶スペースを作っていたときのように、みなさんの声を参考にしたい空間づくりをしていきたいと思っています。

UMIではオープン以来、沢山の方々に来店いただいております。そしてみなさんがお楽しみいただけるように、コーヒーや紅茶などの豊富なドリンク



おすすめはカフェラテ



メニューや軽食やホームメイドケーキをご用意しています。また、お食事のお持ち込みもいただけますので、近所の和菓子屋さんやケーキ屋さん経由のご来店、好き嫌いが多いお子さんのための手作りのお弁当のご持参もお待ちしております。最後に、「海」のようにあることが当たり前の場所にしたいたいと思ひ、店名を「UMI（うみ）」にしました。「ちよつとUMIに行ってくるよ」その一言でみなさんの心が少しでも明るくなるよう頑張ります。

しもすわ人形劇まつり 2019

日 時：7月6日（土）午後1時30分～午後4時30分（予定）
7月7日（日）午前10時00分～午後1時00分（予定）

会 場：下諏訪総合文化センター 小ホール ほか



入場料：高校生以上 500円（2日間有効）
中学生以下 無料

☆チケットは、下諏訪総合文化センター窓口でお求めいただけます。

〈問合せ〉下諏訪総合文化センター 28-0018

町民大学

— 下諏訪で学ぶ ② —



演 題：『石器から探る中部高地の縄文世界』

講 師：宮坂 清（諏訪湖博物館・赤彦記念館 館長）

日 時：7月28日（日） 午後1時30分～午後3時00分

会 場：文化センター2階 集会室 ※当日受付可（受講料100円）

縄文ブームと言われる昨今、土偶や土器の造形美が注目されていますが、縄文人の社会や文化を探るうえで欠かせないのは、生活の道具である「石器」の研究です。縄文人は矢尻など生業用の石器から精神文化に関わる石器まで複雑な道具の体系を作りました。その実態を読み解き、石器から中部高地の縄文世界を探ってみようと思います。

問合せ ☎28-0002（生涯学習係）

自然観察会 ～ガイドと歩く夏の八島湿原～

八島湿原は日本最南の湿原です。夏のさわやかな高原を、ガイドの説明を聞きながら歩いてみませんか。ヤナギランやアザミの仲間など華やかな花に出会うことができます。



日 時：8月3日（土） 午前8時30分～午後2時30分ごろ

※午前8時20分、総合文化センター前集合（貸切バスで移動） ※雨天中止

定 員：60名

コース：八島駐車場～八島湿原一周～八島駐車場（予定）

※昼食は各自でご用意をお願いします。（食事処を利用することもできます）

内 容：自然観察ガイドの説明を聞きながら、八島湿原を一周します。高層湿原特有の植物を観察して歩くのも楽しみです。

参加費：100円（保険料・資料代）

申込み：参加費を添えて、7月25日（木）までに直接下記窓口へお越しください。

問合せ：下諏訪町教育委員会／生涯学習係（文化センター内）27-1111（内線718）

下諏訪町産業振興課／観光係（町庁舎2階） 27-1111（内線272）